

第11回「経営トップに喜ばれる安定稼働とコスト削減」

IT経営の効率化を実現する アイ・アイ・エム



代表取締役会長
小野 孝史

1948(昭和23)年4月、兵庫県生まれ。1971年国立滋賀大学経済学部卒業。日本NCR(株)、日本アイテル(株)を経て、1988年(株)アイ・アイ・エムを設立。趣味は、ゴルフ・読書。

経営トップからお礼を言われました

アイ・アイ・エムが開発・販売する「ES/1」は「コンピュータの稼働状況を解析し、問題箇所を解消することで、パフォーマンス(性能)を最大限に引き出すソフトウェアである。1988年の発売以来、業界を代表する大企業を中心に800社以上に導入実績があり、顧客数は年々増加している。

ある電力会社の場合、千台以上のサーバーを使用していたが、現場に管理を任せていたため現場の言いなりにサーバーの増強を図っていた。しかしサーバーの増加や増強をこのまま放置すれば大変な事態になるということで「ES/1」を導入して一元管理ができるようにした。

「計測できないものは制御できません。そこで、「ES/1」を用いて全サーバーがどのような状況にあるかを計測・分析し、無駄がないか、また負荷の偏っているサーバーがないかなどを徹底的に洗い出したのです。その結果、余裕のあるサーバーがいくつも見つかり、それらを統合することで問題が解決できて運用コストを大幅に削減できた」と、経営トップからお礼を言われました」

「ほか、サーバー更改時に分析をしていただき、当初の計画より小規模なサーバーで更改できました」や「システムの稼働状況を把握できるようになり、レスポンスの悪化を防止できました」など、「ES/1」を導入した効果を実感しているお客様の声が多数寄せられている。

お客様の喜びが当社の喜び

ある省庁の場合、性能問題が発生してから一年経っても原因が特定できず、改善できなかった。ところが、「ES/1」を導入し、アイ・アイ・エムのコンサルティングを受けたところ、わずか1カ月で原因分析ができ、安定稼働を実現した。

「もちろん『ES/1』には当社のノウハウを蓄積していますが、そこに人的ノウハウを追加することで、つまりツール+コンサルティングによって、あらゆる問題を解決してきました。今まで解決できなかった問題を解決できたという声をお客様からたくさんいただきますが、そういったお客様の喜びが当社の喜びになり、仕事の励みにもなります」

また、「ES/1」の機能の一つに、「見える化」がある。つまり、WEB上で性能管理の情報を閲覧できる。今まで特定部署の情報

だったものが、担当者から経営トップまで性能管理の問題を含めて共有できるようになった。実際に、これまでは性能問題が発生していかないとかが担当者に漠然と聞くしかできなかったが、「このグラフを見ると、無駄があるように思えるけど、実際はどうですか？」など、的確に性能管理の問題を把握できる。この点を評価する経営トップは多いそうだ。さらに、システム部門や関係会社等にも制限をかけた上で閲覧させることができるので、情報の共有化が進み、次の一手が早く打てるようになる。

それから、アウトソーシングの場合は、双方にとってメリットがある。例えば、企業がシステムの運用管理をアウトソーシングした場合、「ES/1」を導入すれば、無駄があるかないかを含めて現状を把握できるので、アウトソーサーの運用管理が確かかどうかを知ることができる。一方、アウトソーサーは「ES/1」を使って企業側のシステムを解析すれば、問題の予兆を把握できるので、事前に交渉が可能となり安心だといふ。つまり、問題発生後にシステム増強費用を交渉するより予兆を捉え事前に交渉する方がお客様に納得していただきやすいからだ。

「ほとんどのお客様から一度使つと手放させないと言ってもらえます。それは、当社が訴えている安定稼働とコスト削減を実感していただいている証拠だと思つので、これからもお客様が効果を実感できるものを作り出していきたくいですね」

(次号に続く)